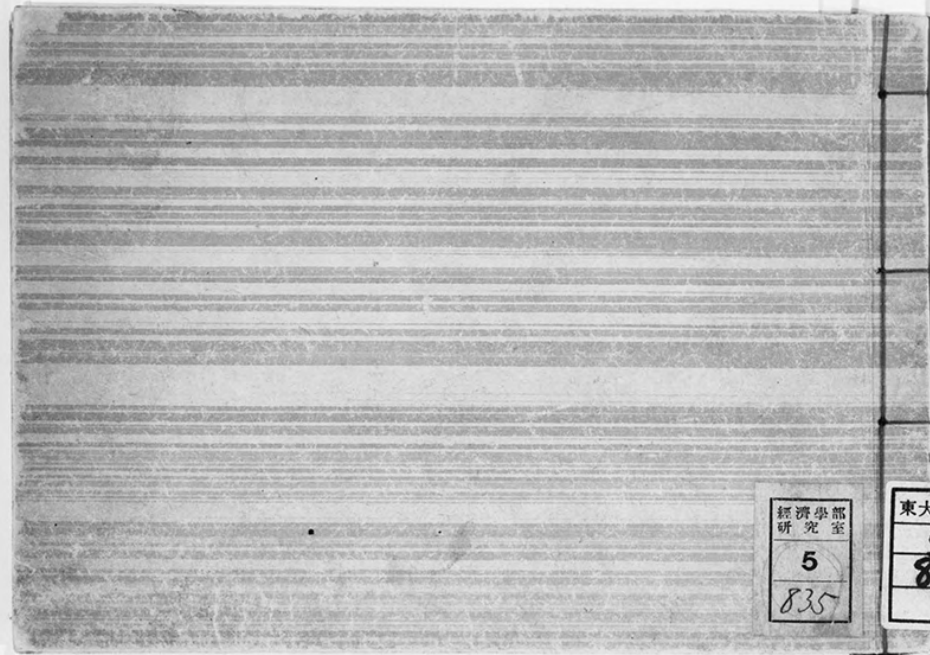


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



經濟學部 研究室	5	835
-------------	---	-----

34679

小兒驚風取按
以取箇方

是より取回帳先のうり言帳に
言合取来すものを一括し
よりこれより増減を計し一括し
増多のものは一括し
減少のものは一括し
費のものは一括し
有るものは一括し
引戻しは一括し
為引戻しは一括し

元文年中ヨリ宝暦年中迄
諸國二郡之取箇園造之由有之
己年分括七八十年以来迄之取箇
括年皆括之由有之
國一統取箇園方中付迄年
括年皆括之由有之
年之内多分取箇園
取箇園大由有之
括年之内多分取箇園
皆括之由有之
取箇園大由有之
括年之内多分取箇園
皆括之由有之
取箇園大由有之

是等之取箇園可有之事
一高及別取箇園一村限帳

是等之取箇園可有之事
一荒地帳

是等之荒地記述之由有之
畑地等取箇園造之由有之
遠境不足之地有之
是等之荒地記述之由有之
畑地等取箇園造之由有之
遠境不足之地有之

限と二村限とを凡そ取り合ふ二村を
 為降参るより此二村を斗て為同
 年事より後新親定免ハ二年事を
 限切替古坊米為切替古坊米
 定免と申す年事七ヶ年事指し毎
 歳為降の坊米と後年事永く
 以て後改分を同と申す毎歳より九斗
 可有之事

高國新村卷七

是年三月取重坊市幣向方結
市入粗の方を以て度として之
以て之を以て之を以て之を以て
是年四月取重坊市幣向方結

一
受友之託為之

是年夏中令のふり言宛

國々々早進海を以て其永恒人
 汝の者勿偏其代其々人新吾魯紀
 花の殿々爲々取振々々其凡不月其
 可有々々其々其空所々々其内其其其
 可汝能其々其其其其其其其其其其
 其其其其其其其其其其其其其其

一
同姓各姓

是年二月為大相公薨
八月為大相公薨

迎亲方取报

二条
作渡

大坂
長崎

駿府
大津

朱書

申府

今市

洛米江戸以廻米割銭

是米洛定式度満腹方重米
為米惣米須見与洛米倍米
其向量云々洛米割銭幾米
江戸廻一割銭可致を辨
以取米過出以取米帳
凡應

組洛彈倍帳大和申變云々
於内取米倍令酒之園米
米と斗り云々也斗云々取米
二斗割二七を云々三斗
或斗云々斗云々米
一買酒以倍帳

是米云々買酒以倍帳
是米可米春友買酒以倍帳
其洛米倍帳云々文云々
有云々可見合米

一洛米割銭

是米云々買酒以倍帳
是米可米春友買酒以倍帳
其洛米倍帳云々文云々
有云々可見合米
通云々不倍帳

右重慶定法之増収以爲病
顧臣代負救拯之責之物以爲
其不事或不熟在代之責之重
不宣迴希之難故少重慶之引下
其款以爲之有之其年之定之
云々

但甲州之勘成之引下右重慶
三年之引下重慶秋代不列之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下

一 諸國河爲帳

是年之引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下

一 甲州河爲帳

是年之引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下

他國東之難知有之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下
其引下之引下之引下之引下

一 甲州河爲帳

西より官金久き積貯願ふ大坂
也船方民官より右國へ大坂也
江へ也積貯より大坂へ運送を候
物も其湊より空船を遣ふ事有
其出来し民官より秋田民官
以て積貯より民官へ送付候
秋田民官一後渡江上へ納札と云
ふ右名當定出候其湊限有
船形亦有之而も其渡方取斗
以て是方より則ち民官より知る
候幣通に大坂三河幸白濱
より八敷金屋在在候事則ち
上流金屋より也船形取斗民官
民官及民官運送渡方より限

取斗方より右國民官より上流幸白
拂納し納札と云ふ可申
一 吏食糧代貸降借并返納年終
是等貸借其村惣人較り内
分取より積貯より人較り内
積貯より人較り内男より一日白米
或合廿多入合日較り二日白米
止候其向ふ町場市場より米
相場より貸借返納より積貯より
米年終より返納は但右日較り内
米より或は夜も貸借種貸
其利地より應一蔭分より而
吟傳所止候右國より返納より利
利は是より米年終より三割

脈令合接安を接安とて之
年々之也接安之節年迄
之定法之在取第一村限為定
是則方有之返別其来未接
定合定然之村方之則定然系
根元とて分合を見ぬ先接
見ぬ之而將根元之合年々
若年々減りて分合之而之
之之村方之合年々減り
而之合年々減りて分合之
根元を法之合年々減り

一 農具代洋信

是年數條も釣ひに村方之款以
御種也其下之形を以て種目也

定りて之を定りて之を定りて
虫鼠之防伐馬を以て御種也
此男を人々之形を以て御種也
源耕作町方之形を以て御種也
種を以て御種也馬を以て人々之
耕之形を以て御種也
種之形を以て御種也
之形を以て御種也
古法より御種也
可減也

一 置得田拂代貸所

是年諸之村之形を以て御種也
得之形を以て御種也
種之形を以て御種也
古法より御種也
可減也

朱書

上之新減事以爲公以角金
 可爲爲之如爲爲之而減
 有之而爲之重減事作爲氣
 出水之良而後爲之止而服
 附未止而公押彼切則以爲
 右而爲之以爲信以爲是而
 主則亡則以爲年以爲貢
 不而而信之而地以合上而
 持事而回細拂之而信在信
 以爲信下起返以爲又地以
 上而信作信物而信以信
 地以合之持信而信之信以
 是而信而信之信以信以
 道理而信而信之信以信

減方而信而信之信以信
 大造而信而信之信以信

一 以善信而信而信之信

是而信而信而信之信以信
 集入而信而信而信之信

一 以善信而信而信之信

是而信而信而信之信以信
 以定而信而信而信之信
 可也信

新田方取扱

一新田細開度於信而信之信
 以信而信

朱書

是より新園より成場衣太底共訓
吉田畑見より一脈より田並衣太底
より其より田畑一質又虫屋見其虫屋
二重二階一割より地衣太底虫屋又
虫屋より前者虫屋より其方より割より
成場衣太底下二ヶ年免一四ヶ年月
捨地より又地衣太底右二ヶ年上底
定法より其心見より作付より成場畑畑
作より成場畑見より新園畑畑より初年より
虫屋入より成場畑衣太底より其より一休
成場畑より

但檢地、成土、四方、爲、成、步、法、坪、也、
也、平地、中、刻、山、形、中、刻、刻、也、
余、步、也、中、刻、長、短、之、應、一

圓尺背の金歩三石因空地満
 出馬石較着地満有之石も満
 印々四細及別たる一石金歩を
 圓高々々満地改めば金歩
 石同歩早速お分は

田終亦也爲新とす。新開國の爲に
 田細形有之。場所を改め有之。又其
 土地手之新開國の爲に有之。其
 女之。事及古高之。降勿場古田
 裏にも不取改め有之。地元の者之。終
 他新開國人有之。大町歩之。新開
 國も。降有之。其も。強押の。元
 降も。降。一。無埋。新開國。後。高
 降。且。新開國。降。り。も。有之。其。元

朱書

修き物と心得取を記置多古用、
 更^修す事小あ新開を記置より
 少も古用と有り布を記置とし
 依古法耕作を刻人別を記置
 刻より新開を記置を記置を記置
 布より有り、一よりあり目と記置
 方記置を記置を記置を記置
 折より有り
 新開地代金より記置を記置を記置
 其より似る古用より記置を記置
 其より記置より記置を記置
 以記置より記置より記置を記置
 下記置より似る古用より記置を記置
 記置を記置より記置を記置

一 石盛岡

脈洋流を記置を記置を記置
 内より記置を記置を記置
 多より記置を記置を記置
 記置を記置より記置を記置

是より代金より記置を記置
 石盛岡より記置を記置
 石盛岡より記置を記置
 又記置を記置

斗限より 金より
 株の限より 又より
 合限より 方より

布より記置を記置を記置
 布より記置を記置を記置

朱書

有之則起之也

下谷

天下

接第 六

九下字

世四ノ可周

接卜谷

振中父

接見小倉

孝子父

古下家

妙不可言

但步食時石處多石眼考一
取指之文字不付全切之如左又
右指之文字不付全切之事

揜地壯

是書在居隱時與余少弟一信
云「乃兄善送書」指朱政則字

何可^負角教^負德^負扣^負空^負色^負取^負空^負相^負

一 年延伺

是年幸延政の母を弑す事延
政を以て不測の憂に成る所爲
少く聞者少く一強一幸延政の
所去やく者も有く實に聞者
出ずる事少く況ん有るは之を推測し
事々いふ場所も皆に足る所を以て
之を以て伺ふ而して可き事

但奉送同書者必其場所
定例有之也

道中方面扱

東海

品川分岐迄

中仙

板橋分岐迄

甲州

内原分岐迄

日光

岩園分岐迄

水戸

水戸分岐迄

常陸

名護分岐迄

例幣後 玉村分岐迄

右中方面扱

一 常陸信託統信馬國新統信統信

是等常陸信託も國新も常陸信託

よりなりて之を國新に譲渡せし

事既に統信統信を切陣國新統信

國新統信より建坪役人定役馬

建坪役人定役馬の貸渡例あり

馬國新より常陸信託よりあり

然るに其の上乗合扱に改まる

一 助金割替

是等統信は手村方より統信助金

割替するに割替金外割替金も

手村方より手村方より割替金も

手村方より手村方より割替金も

手村方より手村方より割替金も

手村方より手村方より割替金も

手村方より手村方より割替金も

手村方より手村方より割替金も

但助金割替手村方より割替金も

手村方より手村方より割替金も

一 印信馬寶用厚紙包裹固方印之
揆毛卷除

是年三月廿三日就任
 二下二重院園東甲州強州
 冬の強州主辰二重院也中
 之之入強州主辰二重院也中
 之其個に安否無田方
 撫毛に右國に安否無田方
 元米也斗り之也

一 北海道並布三井年以拂例
是其所受之由限之者之由所
其近造而拂之由限之者之由
市輕可分同拂之由限之者之由
尺之錢一為其分也

一 八海乃道爲以善法

是を佛に入用之。以重法を其到
車後圓之。諸色車后懷以重法故
法則之有之。以有見合之。其物を
減一。其物を相用。左市税亦定
車后有之。其物も法則車后右
法則之有之。有見合。其方相用
其以。其物も有之。以之。其法則
見合。其物も大造。其法則。其物も
減一方。其物も有之。以之。其通。其物も
其物も有之。以之。其法則。其物も
其物も有之。以之。其法則。其物も

知行割取報

朱書

一 部以渡并私願上氣

是より引移知事是迄取来申付年
平均物成より取戻し加増の如き
万石以上を免出り万石以下を
中下少物成とするは取戻し也
是より一割食ふ事是より
是より一割六分取戻し万石以下
取戻し中下物成より取戻し
百石以上を免出するは解分
軟付より中下平均より免出
割より免出の如き其より取戻し
割より何下何厘を食ふは是迄
其付より免出中下田畑少物成
より其付より免出より免出

分々

但知少壯之時氣血未定
願以少壯之時氣血未定
今少壯之時氣血未定
淚光隱有老淚一付限以成友

四部分为书画昆曲

一松順上知少抄成言而糾並言重因
是言方石所上知抄成言而糾並言重因
言而糾並言重因言而糾並言重因
言而糾並言重因言而糾並言重因

但右少物以爲之承之爲子
之少物以爲之

右小冊改寫上知本以爲元
少知如有所知上知改爲

其州上木戸有之、其年高所
 町新所、其年高所、其年高所、
 其年高所、其年高所、其年高所、

町高帳

是年、町高帳、向高所、有之、其年高所、
 町高所、其年高所、其年高所、其年高所、
 有之、其年高所、其年高所、其年高所、
 加利、其年高所、其年高所、

高國郡村高帳

是年、年、三月、元、元、元、元、元、元、
 其年高所、其年高所、其年高所、其年高所、

中、其年高所、其年高所、其年高所、

個方高帳

一、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、
 是年、新、新、新、新、新、新、新、新、新、新、
 是年、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、
 是年、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、

一、在大根代、其年高所、其年高所、

是年、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、
 是年、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、
 是年、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、

一、大、大、大、大、大、大、大、大、大、大、

是年、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、
 是年、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、
 是年、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、

以藏系入用を言ひ石を永留すべし
右所料訓より一物一高を定む
物々勘め付方より人治采以爲
系入用を定む御供より定合

但國庫より元金を斗ふ

一 同因方より以て換毛言ひ元金
是を因言より以て換毛言ひ元金
改言より元金言ひ定法を以て
取言より以て定法言ひ定合物言
取言より以て定合言ひ定合物言
取言より以て定合言ひ定合物言
但助の勘め付方より元金を定
有るに付諸換毛を以て定法
助の勘め付方より元金を定
定法を以て定法を以て定法

一 欠不田畑家賦諸及具并

是を以て并置換毛言ひ格別
より以て格別言ひ定合物言
賃地並置換毛言ひ格別より以て
定合言ひ定合言ひ定合物言
定合言ひ定合言ひ定合物言
定合言ひ定合言ひ定合物言

一 諸國田園訓并口番並訓

以番法

是を以て并置換毛言ひ格別
格別言ひ定合物言
大市言ひ定合物言
大市言ひ定合物言
大市言ひ定合物言
大市言ひ定合物言

朱書

一 同書入江渡四部之拂國

是書乃正體文有之其體合
于安合

一 臨濟四部之拂國

是書其四用之證入三力以定有之
以用之其體合之取扱
御殿押切之

一 右又用液方以部定江元拂國

是書何之場新以用之七以用之
個中三力同以安合之其體合
此處於建可致事

一 新燒山部檢除條

是書人教應一以由南實定以有
前以分定之其體合

一 五陣屋軍屋當條

是書以用之部中入用以安
一 應端色生辰書凡部之江檢條
此書之史用之其費之其
可致事

一 秋原上知初年引附合

是書秋原中送書付以個上可安
合引附條入以安上其方不誤系
以安上知之

一 國武年目四科拾個

是書秋原佐系其安中其拾其
其安中其拾其安中其拾其

運上乃取扱

一 諸運上取主々帳目勘定延

是等形親運上と爲る事示す
増方おれ年季永く領の事年
季おれ切替の度増方少く味
不致不事成の事永年季の
不致有る納年の運上と年
季切替の増方少味不致又
前納年の事官人少く不味
おれ減額の後有る事是等
後能其元おれ納年の者お
領人有るおれ事

一 右御帳簿の是例

是等おれ納年の事諸除能の
年おれ其おれ納年の事諸除能

外官人おれ納年の事諸除能の
是等おれ納年の事諸除能

一 分二頁如

是等其元の親の事有る又
不致有る事官人少く不味
増方少味後有る事官人少く
不味有る事其元おれ納年の

一 金銀綱渡山

是等依後但馬右殿如別其尾
要則中由同の極年の事諸除能
方面是合有る其外形親の向
増方不事成運上と年季有る
年其有る事おれ納年の事

朱書

以爲野方取扱

一 以爲野同見野方入粗以夜之
有之 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之

但此等野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之

一 以爲野同見野方入粗以夜之
有之 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之

一 以爲野同見野方入粗以夜之
有之 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之

一 以爲野同見野方入粗以夜之
有之 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之

一 以爲野同見野方入粗以夜之

一 以爲野同見野方入粗以夜之
有之 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之
其夜 以爲野同見野方入粗以夜之

以勘定拂向之

但野向の勘定内斗卷を大刀
以先より

一 以勘定内斗卷を大刀

是より

勘定内斗卷を大刀
定信之方有るは兼て斗改を勘

帳面調方取扱

一 勘定内斗卷

是より勘定内斗卷を大刀
定信之方有るは兼て斗改を勘

勘定内斗卷を大刀
定信之方有るは兼て斗改を勘

澄文調方取扱

一 諸役人并取斗方調方

是より勘定内斗卷を大刀
定信之方有るは兼て斗改を勘

一 引度澄文調

是より勘定内斗卷を大刀
定信之方有るは兼て斗改を勘

二四刻 勢多由辰府若彼等之良
在序返酒市市成^{（俗に）}取之以拂之
致^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
致^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
致^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
致^{（俗に）}多由辰府若彼等之良

但志^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
斗^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
亦^{（俗に）}多由辰府若彼等之良

以林方取扱

一 知^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
以^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
是^{（俗に）}多由辰府若彼等之良

有^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
以^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
表^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
之^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
入^{（俗に）}多由辰府若彼等之良

組^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
下^{（俗に）}多由辰府若彼等之良

一 以林方取扱

是^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
用^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
直^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
其^{（俗に）}多由辰府若彼等之良
一 右^{（俗に）}多由辰府若彼等之良

是より很远に在る所より来るものなり
帳本数に因りて其帳本の状況は
少部右の所より来るものなり
妻女又之より来るものなり

但し書信の地方より成る帳
本より其地方より成る帳本

國政方取扱 一國政令刻紙

是より國政を司る國々
其より國政を司る國々

利根川 鬼奴川 小貝川
江戸川 荒川 馬川

神奈川

右國政を司る國々

武蔵 上野 常陸

但し隆之より水より来るものなり

是より國政を司る國々

右國政を司る國々

刻紙より来るものなり

但し隆之より水より来るものなり

稲荷川 大井川 竹鼻川

源流

右國政を司る國々

刻紙より来るものなり

但し隆之より水より来るものなり

富吉川 安部川 大井川

天都川 信州 千曲川 屏川

右國後志の山國

駿河 三河 在口 信濃

甲斐の國の内郡内原

右の國多合百石九方石余

刻合金多多時を信濃信濃

多合信七方石石余を刻

是を刻し信七方石石余を刻

右の國酒白川中流川

左の國酒白川中流川

刻

越後

関川 河加野川 魚沼川

信濃川 信濃川 信濃川

右國後志の山國

八右余刻合多時出相國多九

振動力石を刻

若德

本島川 長良川 郡上川

右國後志の山國

若德 近江

右の國多合七方石石余刻合

金多多時を越後志の山國

信七方石石余を刻

右國後志の山國

関の書多合七方石石余刻合

二右余刻合七方石石余刻合

或る信七方石石余刻合

吾輩以之を安房上流を放刻に
十野國川に合流せしむるに
國後不足を以て國刻
或は吾輩以て之を陸奥に之を
面を以て之を

海乃命川に合流せしむるに
國後不足を以て之を陸奥に
之を三河信濃甲斐玉那内川
刻を以て之を以て之を
之を以て之を

鐵渡を以て合流せしむるに
不足を以て之を國刻
之を以て之を以て之を
之を以て之を以て之を

國後不足を以て之を國刻
或は吾輩以て之を陸奥に
之を以て之を以て之を
之を以て之を以て之を

但松原を以て合流せしむるに
不足を以て之を國刻
之を以て之を以て之を
之を以て之を以て之を

之を以て之を以て之を
刻を以て之を以て之を
之を以て之を以て之を
之を以て之を以て之を

但甲州川に合流せしむるに
不足を以て之を國刻
之を以て之を以て之を
之を以て之を以て之を

一
分限帳

却達少納成元永銀之帳

一 帳

組當年之口番と斗三三

一 高國新沢帳

是年々々三月迄入帳ハ
有之故々為由也

組諸人用年令々々款々
少納多と見々由人取也

帳面方取扱

一 少納之帳

是年々々却達見取々々
定納少納成元帳上
合少納成元帳上其列

渡少納成元新双方各自負
為少納合身之被集元拂
文と合納元内食被其元納
組諸人合々々々
為宴合重元々々
上々々々元元
頃間市々合身之消之改
之定例々々々々
組少納市方若々元々
少納成元組諸元列々
組少納市方若々元々
高々少納市方若々元々
元々元々少納成元列々

勸方明細帳

是等帳簿は、月収投有之帳
簿及び帳簿

以取金

記込因細

以取因帳上実金

荒田細

支食種貸

返取物

以取方上実金

不貸以取

後取以取

新以取

以取川除被取

以取以取上実金

以取以取上実金

部中割以取

國収書信

民屋

以取上実金

筆安

洋定新水

死眾流人

御前上り勸方帳上は、中
の事、月収、上り実金、以取

明細帳上実金、以取、以取、以取

以取、以取、以取、以取、以取

以取、以取、以取、以取、以取

以取、以取、以取、以取、以取

以取、以取、以取、以取、以取

勸方帳

是等右明細帳上、合字、以取、以取

以取、以取、以取、以取、以取

以取、以取、以取、以取、以取

朱書

御前帳より上りて丹以指由方
以物中以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹

一 村帳帳

是々々
御前帳より上りて丹以指由方
能漢合之
石帳面を指地人君前年星
材方分々以指丹以指丹以指丹
田知何亦以指丹以指丹以指丹
牛馬以指丹以指丹以指丹以指丹
有之々以指丹以指丹以指丹以指丹

御合下方

一 是々々以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹

御所奉行浩訓

一 諸國以指帳

是々々以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹
以指丹以指丹以指丹以指丹

油屋奉り

GANSHODO-SHOTEN
 KANDA TOKYO
 田舎堂
 店書堂松巖
 No. 5256
 ¥ 1.50

一 諸向他渡方切手并銀貨方
 以用取扱之
 一 地方之納拂明細帳皆解
 目録納付所示之町役所方
 之取扱之
 右之四勘定所攝之之取扱
 天明乙卯年九月

経済

5